いわみざわ市

緑の相談コーナーだより

室内公園 色彩館 SHIKISAIKAN
岩見沢市志文町７９４
No.455
2023年　5月 1日発行

いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

春を楽しむ一年草

長い冬から目覚めた庭の中には小球根や宿根草など例年より早い勢いで芽吹いていると思います。一年草とは、種子から発芽して一年以内に成長して開花・結実して種子を残して秋から冬に枯死する植物の事です(普通は草本)。ワンシーズンだけの短いおつきあいの花ですが、毎年お迎えしたいたくさんのお花が流通する 5 月は新しい出会いで胸もときめき園芸店を回る楽しい時期でもあります。お花の種類で、植え付け場所や水やりの頻度、適切な施肥、花がら摘みや切り戻し方法など、少し覚えておくと毎年庭の様子を思い浮かべて楽しむことができます。育て方のまとめとしては、どの時期に開花するのか？を把握してお花の品種を選びましょう。今年はキングフィッシャーデイジーという珍しいブルーの花が咲く品種を種蒔きから始めたので、お庭の中での生育が楽しみです。あとは前記に述べてあるようにお手入れが大切です。分からないことができたら、色彩館緑の相談コーナーにお問い合わせください。

（たかはし）

土壌微生物の効果とは

土壌微生物の種類と効果は多岐に渡ります。糸状菌、放線菌、細菌などの分類だけでなく、植物の生育に必要なタンパク質を分解する菌、デンプンを分解する菌、セルロースを分解する菌、リグニンを分解する菌など、植物に供給する栄養分別に分類することもできます。例えば、動物の糞や死骸、枯れた植物に含まれる分解しやすいデンプンや糖、タンパク質は、細菌や糸状菌などが分解していきます。次に分解しにくいセルロースをセルロース分解菌が分解・増殖、難分解性のリグニンを分解する微生物の存在もありますから、細かく分解はつづきます。この時、エサがなくなり増殖できなくなった微生物達は胞子を出したりして休眠状態に入るか、死滅するのですが、この死滅した微生物を食べる微生物ももちろんいます。土壌微生物の力を向上するには、彼らのエサとなる有機物を土に混ぜ込むことが重要と言えます。有機物を微生物が分解することによって、その生成物により土同士が結びつき、団粒化が進みます。団粒化が進めば、土同士のすき間が多くなるので、通気性や排水性の向上に結びつき、農作物に良い土ができあがります。もし野菜を短期間で効率よく収穫することを目的とするのであれば、化学肥料などを活用したほうが手っ取り早いかもしれませんが、先に紹介した微生物の力がないと、土地はやせ細り、徐々に収穫量も品質も下がっていってしまいます。土壌微生物の力による農作物への影響はかなりゆっくり感じるかもしれませんが、長期的に見て、安定した収穫を得たいのであれば、土壌微生物を優先した土づくりを意識することをおすすめします。(ながやす)

マダラコウラナメクジ

「すごく大きなナメクジがいる」という噂は何年か前からちらほら聞いていた。私の聞いた初めの情報は札幌だったが、数年して岩見沢の友人の家、ついに昨年は我が家の庭にも出現した。マダラコウラナメクジ。外来種で名前の通り黒っぽいマダラがあり体調は成体で 15 センチ以上。なかなかの迫力なのでこの手の生き物が苦手な人には悲鳴ものだろう。買ってきたポット苗などで卵がはこばれ、有機質の多い湿りがちの庭で繁殖するのだろう。見つけたら速やかに捕殺してほしい。雌雄同体で一匹でも卵を産めるが交尾もするので繁殖力は強い。人に害がある寄生虫がいる可能性もあるのでけして手で触ってはいけない。興味深々の虫好きの子どもにも注意してあげた方がいい。(きのした)

＊「今月の便り」　次ページへつづく⇒

ウド

ウドは北海道から九州まで全国の山地に自生しており、フキ・ミョウガ・ミツバなどと並んで日本原産の野菜のひとつです。ウド（独活）の名前の由来は、茎が生育すると中空になるので宇登呂（うどろ）と呼び、それからウドとなったと言われています。新芽が食べられるタラノキの仲間で、タラノキ（タランボ）と違い土から生えているので「ツチタラ」という古名があります。成長すると茎の高さは２メートルほどにもなり、茎は太く全面に毛があります。春に山菜を取るときはこの枯れたウドの茎が目印になります。７～８月頃、茎の上部に大きな散形花序をつけますが小花が集まった花の色は淡緑色で、雌雄異花で両性花があり実は黒色の液果です。春先に店に出る白いウドは、室で軟化栽培したものです。日本では山菜として人気のウドですが海外で生まれた黄金葉の「アラリア･サンキング」いう品種はガーデン用で日本に逆輸入されています。原種のウドに比べるとやや小型で黄色い葉色が鮮やかなのでシェードガーデンなどに植えられるようになってきました。（いとう）

５月の開花はどうなる？

冬から解放された北国では、桜は例年より 10 日ほど早く 4 月中～下旬の開花となり、他の花木も早まっているようです。日本全国で人々に親しまれている桜が話題の中心になります。また海外からの観光客からも、最も印象深い花木とされています。さて例年に比べ、５月はどうなっていくのでしょうか。開花は様々な気象条件に影響を受け、雪で閉ざされていた低木、多年草では雪解けの時期にも大きく左右されます。先月順調に雪が融け地面が顔を出した岩見沢では、今月も開花の時期が 1 ～ 2 週間早まるのではと思われます。特に花をイベントに活用する人、個人的に庭で楽しむ人にとって気になるところです。私の記録で恐縮すが、開花が早かった 2008 年の記録によれば次の通り。何かの参考にして頂ければと思います。

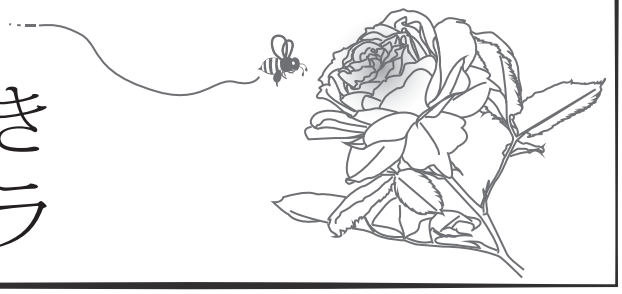
（５月上旬）ライラック、ヤエザクラ、フサスグリ、フッキソウなど
（中旬）ナナカマド、クロフネツツジ、エゾノコリンゴ、ヤマツツジなど
（下旬）トチノキ、フジ、キングサリ、テマリカンボク、シロヤマブキなど　　（かわはら）

トマト・ミニトマトの栽培で実を大きく甘く育てるための肥料

トマトは初心者でも簡単に育てられる野菜です。しかし、しっかりと実を付けるためには適応した肥料が必要です。肥料には有機肥料と化学肥料の２種類があり、有機肥料は、動物などの骨や糞などの動物性と菜種油を絞りかすや米ぬかなどの植物性の肥料です。長所は、効果に持続性があり野菜もゆっくり成長し美味しい野菜が収穫できます。短所は虫がわきやすい、臭いのするものがあり、土壌微生物による分解過程で有害物が出ることがあります。化学肥料は、化石燃料や鉱物資源を化学的に合成して作る肥料で、肥料の三要素の窒素・リン酸・カリが含まれています。長所は、水に溶ければすぐに根から吸収するので効果が早く臭いが少なく有害物質を含んでいません。短所は、少量で効果があるため過剰に与えてしまい肥料焼けをおこす恐れがあり、即効性のため長期栽培には追肥が必要となります。更に化学肥料だけ使っていると土の微生物が減って土の質が悪くなります。では、トマト栽培にはどちらの方が良いのと言うと、諸説色々言われていますが、私はどちらでもいいと思います。一般的に有機肥料はじわじわと効くので野菜も美味しくなると言われていますが、栽培者によって成長過程が異なり、味が変わるため、確実に味が良くなるとは一概に言えないと思います。トマトを大きくしたり甘くしたりするために大切なことはどんな肥料成分を与えるかが重要です。トマトは実を充実させるためにＰ(リン酸）成分を多く必要とします。有機肥料では、発酵油かす（粉末状タイプ)＋骨粉か魚粉で、化学肥料では袋に書いてあるＮ-Ｐ-Ｋのうちｐの数字が一番大きいのがリン酸がたくさん含まれていると言うことです。

チョット
いっぷく

ひとつき ひとバラ



文：田中　伸枝
（いわみざわ公園バラ園）

第百一回

フロリバンダ ローズ

ブリリアント ピンク アイスバーグ

Brilliant Pink Iceberg

作出国：オーストラリア
発見者：Lilia Margaret Weatherly
発見年：1995 年
ハーディネスゾーン：Z6
繰り返し咲き
交配：Pink Iceberg の枝変わり

今年は雪解けも早く、せわしなく春の作業を行っていることと思います。囲いを開けたらもう葉が展開している。なんてことは自分も始めてで、囲い外しで 3 月の暖かさを振り返ることとなりました。

今回はオーストラリア作出のブリリアント ピンク アイスバーグをご紹介いたします。色は中心のしべの周囲は白く、グラデーション状になっており、外側に行くにつれ濃く明るいピンク色になっていきます。花弁には細かいかすり状の模様が入っています。アイスバーグと同様、花弁数は少ない丸弁八重咲の品種です。

なんといっても特徴はしべですね。アイスバーグのしべが黄色に対して、ブリリアント ピンク アイスバーグのしべはピンク色です。蛍光ピンクのしべと、花弁のかすり状模様の二つが合わさって、名前のブリリアントピンク（輝くピンク）を体現しているなと思います。初めて見た時になるほどと感心したくらいです。バラの花形で開ききる前の巻きがある状態が好きな方が多いと思いますが、この品種に関しては開いてしべが見える状態も可愛らしく、咲き始めから長く楽しめるバラだと思います。

樹高、幅ともに 150 ㎝程度に育つ品種です。ですが残念ながら当園ではその半分程度の大きさにとどまっています。作出がアイスバーグの枝変わりのピンク アイスバーグからの枝変わりなので、樹形もかなりアイスバーグと似通っており、シュートやあまり太い枝をださず、細めの枝で見た目少し華奢な印象を与える樹形ですね。耐寒性はそれほど強くないですが、しっかりと囲ってあげれば凍害もあまりなく越冬することができます。耐病性に関しても強くはなく、黒点病等無農薬であればかかってしまいます。

発見者の Lilia Margaret Weatherly さんは、元となったピンク アイスバーグも発見しています。これらを発見した功績を称えるため、オーストラリアのタスマニア州にピンクアイスバーグローズガーデンという公園と記念碑がつくられています。地図で見る限りはほんとに小さな公園なのですが、オーストラリアの方々からとても愛されていた育種家だったことがわかりますね。1958 年に作出され、現在でも世界中で販売され愛されている名花アイスバーグの枝変わりの発見はとても素晴らしい功績ですね。小さな変化にも気づく目と、品種化する行動力があってのことなので、自分も見習っていきたいなと思います。

令和５年度　いわみざわ公園バラ園作業ボランティア『トムテ』のなかま 募集

バラ園を一緒に育みませんか？

皆様にもっと親しんでいただけるバラ園になっていきたいという想いを込めて、作業ボランティアを募集しています。『トムテ』とはボランティアの愛称で、そのお家のお手伝いをしたり守ってくれる、スウェーデンの妖精の名前です。

前年度から活動日を増設！
活動しやすくなりました！
バラ以外に宿根草や一年草の手入れもあります。

活動日
①木・金曜日（定例活動日）
②『ばらゼミ』開催日の午後から
③その他自由

参加には登録が必要です。詳しくはお気軽にお問い合わせください

お問い合わせ先　いわみざわ公園バラ園（室内公園 色彩館）
〒068-0833　岩見沢市志文町 794 番地　TEL 0126-25-6111
URL：https://iwamizawa-park.com/　E メール：info@iwamizawa-park.com

今月の市民園芸講座のご案内

●5 月 14 日（日）　13:00~15:00　芝生管理のポイント
料金：無料　定員：40 名　講師：辻栄 三郎さん　芝草管理技術者

●5 月 20 日（土）　10:00~12:00　ばらゼミ③　病虫害対策の考え方
料金：無料　定員：40 名　講師：古舘 杏奈さん　ローズグロワー

●5 月 21 日（日）　13:00~15:00　小品盆栽の楽しみ方
料金：材料代 1,000 円　定員：40 名　講師：桑内 彦さん　岩見沢樹石会

●5 月 28 日（日）　13:00~15:00　Only One の寄せ植えづくり
料金：材料代 2,000 円～（容器代別途）　定員：10 名
講師：高橋 かつえさん　フラワーマスター

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。
　電話 :0126-25-6111　ホームページ :https://iwamizawa-park.com/
※連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。事前申し込み無しに当日に飛び入り参加される方は、定員制限などの関係から受講をお断りさせていただく場合がございます。
※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日３～４日位前までにお申込みをお願いいたします。
※換気の為、扉・窓等を開放いたします。暖かい格好でお越しください。

編集・発行　空知リゾートシティ株式会社（いわみざわ公園バラ園指定管理者）
お問合わせ　いわみざわ公園バラ園　室内公園「色彩館」 0126-25-6111